

平成 30年 10月 23日

浜田市議会議長 川神 裕司 様

議員名 村武 まゆみ



## 調査研究活動報告書

下記のとおり調査研究のため研修等を行ったので、その結果を報告します。

### 記

1. 期 間 平成30年8月19日(日)～21日(火)
2. 調査研修内容  
現代の子どもが抱える各種の課題(自尊心が低い、コミュニケーション能力の低下等)に対する教育指導方法の普及推進。  
講師 木原雅子先生  
京都大学院医学研究科 准教授、一般社団法人日本こども財団 理事長  
「青少年教育社会問題研究所」所長、国連合同エイズ計画共同センターセンター長、WHYSプロジェクト 代表
3. 研修先  
京都大学院医学部研究科大セミナー室
4. 調査経費  
①交通費 京都⇄広島 新幹線 22,180円  
②宿泊費 ホテルグレイスリー京都三条 28,400円  
③研修参加費 11,880円、1,080円 計12,960円  
合計63,540円
5. 調査研究活動の概要

別紙のとおり

【研修の概要】



# 1、「WYSH教育」全国研修会指導者養成コース 中学校、高校用

## 講義1「WYSH教育の概要と全国の生徒の現状」

- ・ WYSH教育とは...子どもの自尊心をあげ、自主性を促す教育=子どもの「自分力」をアップさせる。“どう生きるか?”を考える”教育  
道徳とは違う。立ち止まって日々の生活自分について考える。
- ・ WYSHの意味... Well-being of, Youth in, Social, Happiness
- ・ WYSH教育の理念...子どもの格差を減らす教育
- ・ WYSH教育のゴール...①各種の危険を回避する力の育成②コミュニケーション力の育成③目標をやり抜く力④困難や失敗から立ち直る力→自分で考え、自分で決め、こうどうする力①～④の育成。
- ・ 生徒の現状...喫煙は減少、大麻しようは高校生で増加、性経験率の推移は15年前から比較すると減少している（二極化している）、性への関心も減少しているため、性教育が下火になっている。梅毒が急増している。
- ・ 問題の背景...バーチャルな人間関係→スマホ依存→親との会話頻度が低い、自尊心が低い、学力とスマホ（ネット）依存の増加、リスク行動と関連性の高さ
- ・ 自尊心と将来への意欲、真剣に話を聞いてくれる先生がいるか、家族との日常会話と各種リスク行動の関連性→自尊心低下、自主性不足→学力低下、スマホ依存、いじめ、自傷行為、不登校

## 講義2「WYSH教育実践例」

### ・ WYSH教育の段階的指導（二階建て教育）

一階部	【1】	第1段階〈安心できる人間関係；居場所作り〉 ●信頼関係作り；教職員と生徒、生徒と生徒
	【2】	第2段階〈自尊心；役割意識〉 ●長所探し；各子どもが、自分を好きになる→好育LIKE
二階部	【1】	第3段階〈情報を伝える〉 ●各種教育；必要な情報を提供する
	【2】	第4段階〈気づきの教育；どう生きるか?〉 ●自立準備；自分で考え、みんなと話し、発表する

- ・ 他人事教育から、自分事教育へ→自分にも、関係あると気づく
- ・ WYSH教育の基本構成...1、導入 2、主要講義 3、グループワーク 4、まとめ
- ・ 性感染症/HIV/予防外妊娠の予防
- ・ 自分たちで考えることが大切

### 講義3 「WYSH教育実践例2」

- ・ 中高生の実践例  
妊娠、出産、育児、命の大切さ  
コミュニケーション力の向上
- ・ 生徒の現状を知る！子どもの声を聴こう
- ・ 授業を自分たちで変えよう！子どもの声を聴こう
- ・ 私も僕も分かったという自信！子どものやる気を引き出そう  
↓
- ・ 遅刻が減った、学習意欲の向上
- ・ 大切なこと...生徒とどれくらい本気絵接することができるか  
どんな子どもにも長所が必ずあります  
生徒の心に少しでも寄り添う

#### 2、個別（小グループ）指導研修コース

課題を抱えた生徒への個別の対応

- ・ 心に寄り添って聴く、心で受け止める...言葉で言えない子もいる
- ・ 日常の関わり方のポイント...日常の声かけを大切に（名前）  
生徒の話は真剣に聴く  
命令、指示、禁止は控える→口を出さず、見守る  
児童生徒のいい点を探す  
褒める時は配慮して、失敗した時が一番必要  
☆自分で考えられる生徒を育てよう
- ・ 「何でも相談室」生徒の困りごとを聴く  
①生徒の困りごとを聴く②将来を考える③自分を伝える
- ・ セクシャリマイノリティに悩む生徒への対応

#### 【所見】

社会が大きく変化する中、将来への道を迷っている子どもたちが増えている中、子ども達の心に寄り添う教育の必要性を深く感じた。学校は勉強を教える場であることはもちろんだが、子ども達にとって必要なのは、安心できる人間関係、自分のことが好きになる自尊心がなければ真の学力向上にも繋がらない。そしてこれからもっと変化する社会に対応できる力をつけて行く必要があると感じた。

今回の研修の対象者は教職員であったが、全国に熱い思いを持って頑張っている先生がいるということがわかった。学校現場の教職員も多忙で子ども達に向き合う時間も少ない中、どうやって子ども達に向き合うか、そしてどうすればいいのかを理解し教職員として自信を持って子ども達に接するために、浜田市でも木原先生が考案されたWYSH教育のプログラムを取り入れて進めることを検討してもらいたい。